

市政に挑む私の決意

決意
1

地域の声を力に、まじめに働きます。

市政の主人公は、そこに暮らす一人ひとりの市民です。
「75歳以上の医療費2割負担はやめてほしい」「年金は減るのに、介護保険料はあがる」「バスの便が少ない。病院に通うのも大変」など、要望が次々に寄せられます。
行政経験を生かして、議会でも地域でも全力でがんばります。



願い実現に全力

いのち、くらしを第一に。

決意
2

くらしを見つめ、政治を変えるため発言、行動します。

米価暴落の対策を国に求める請願を大田市議会は、「不採択」にしました。

一次産業は、大田の土台です。農業に冷たい国に黙っていていいのでしょうか。

森友・加計問題、「桜をみる会」疑惑の一方、コロナ禍にあっても福祉・医療の削減、軍事費の大幅増額を続ける政治に未来はありません。地方から政治を変えるため発言し、行動します。

私の歩んだ道

少年時代

山羊を飼う



小学4年から6年間、会社勤めの父と山羊を飼いました。学校から帰ると「おい籠」を背負って、あちこちの道端の草を刈りとり、その日の餌にしました。

学生時代

将来どう生きるか悩む



社会の歴史や仕組みを学ぶなかで、何が真実か、自分はどう生きるかを悩みました。まじめに働く人、弱い立場の人のために生きようと、20歳の時、共産党に入りました。

社会人時代

仕事と組合活動を両輪に



堺市役所に入職、主に教育委員会で働きました。業務のかたわら、職場の労働条件の改善や市民とともに、住みよい堺市をつくる運動にとりくみました。

略歴

1948年生まれ、大田市鳥井町出身。大田高校、信州大学卒。大阪府堺市役所職員を経て故郷の大田市へUターン。現在、党市副委員長。鳥井町在住。家族は妻と1子